

令和6年度 山形美術館事業計画書

2024年4月1日

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
カンヴァスの同 伴者たち 高橋龍太郎コレ クション	山形県鶴岡市に生まれた精神科医の高橋龍太郎氏は、1977年より日本の若手作家を中心に現代美術のコレクションを本格的に開始した。現在も新たな作家の発掘や作品の再評価を精力的に行う日本を代表する現代美術コレクターである。 本展では、3,000点を超える高橋龍太郎コレクションの中から、コレクションの原点である草間彌生、合田佐和子、山口晃の作品をはじめ、高橋氏が現在注目する作家の作品約70点を展示し、社会を反映しながら多様に展開する日本の現代アートの現在(いま)を紹介する。まだ見ぬアートとの出会いを楽しむ機会とする。	4月5日(金) - 5月26日(日)	一 般 1,500円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜と5月5日は中学生以下無料
川瀬巴水 旅と郷愁の風景	大正から昭和にかけて活躍した木版画家・川瀬巴水(1883-1957)を紹介する展覧会。近代化の波が押し寄せ、街や風景がめまぐるしく変貌していく時代に、巴水は日本の原風景を求めて全国を旅し、庶民の生活が息づく四季折々の風景を描いた。それを支えたのは新時代の木版画「新版画」を推進した版元の渡邊庄三郎(現・渡邊木版美術画舗初代)や彫師、摺師といった職人たちだった。本展では彼らとの協業も紹介する。初期から晩年までの代表的な作品とともに、まとめて観る機会の少ない連作も含め、約180点を展示する。	7月11日(木) - 8月25日(日)	一 般 1,400円 高大生 800円 小中生 500円 ※土曜は中学生以下無料
三瀬夏之介 ゆらぐ絵画	三瀬夏之介(1973年、奈良生まれ)は、2009年に東北芸術工科大学に着任以降、東北・山形の風土に向きあった制作により、旧来の「日本画」の概念や制度を相対化する絵画のあり方を問い続けている。本展では、三瀬夏之介の近作を中心に、作家が関わる地域プロジェクトなどもあわせて紹介する。場所の歴史や記憶と不可分に描くことの根源を見する圧倒的な表現から、山形の歴史性や新しい風景を考えるきっかけとする。	11月1日(金) - 11月17日(日)	一 般 1,000円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
山形の美術 山形美術館60年の あゆみとコレクション	山形美術館は、まだ地方に美術館が少なかった1964年8月に開館し、2024年に開館60周年を迎える。当館ではこれまで、日本および東洋美術、近代フランス美術の優品をはじめ、本県にゆかりの深い作家らの作品を収集してきた。また数々の企画展や県展、館利用団体展等の開催を通じて、市民が美術に親しむ場や、創作活動に勤しむ人々が研鑽する機会の提供を図ること、本県の芸術文化振興にも寄与してきた。 本展では、創立から現在にいたるまでの山形美術館の軌跡を、収蔵品とともに紹介する。過去のあゆみを振り返りつつ、これからの美術館の活動や、山形の美術について展望していくための一つの機会とする。	12月13日(金) - 1月26日(日)	
		一般 1,200円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料	

-3県展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第79回 山形県総合美術展	山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。1946年6月に第1回展が開催されて以来、本年度で79回となる。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招いて入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示する。併せて第66回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。	8月31日(土) - 9月16日(月・祝)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第49回 山形県総合書道展	山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し開催している本展は、1975年の第1回展開催以来、本年度で49回を迎える。県書壇の重鎮らの合同審査により、優秀作、入選作を選定し表彰する。また審査員らによるギャラリートークを通して、県書道界のなご一層の振興をはかる。	9月21日(土) - 10月6日(日)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第59回 山形県写真展	山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。1967年1月の第1回展の開催以来、本年度で59回を迎える。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家の審査により入賞、入選を選んで表彰する。	2月20日(木) - 3月23日(日)	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	

-収蔵品によるテーマ展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
フランス近代絵画の精華 吉野石膏コレクション・服部コレクション	当館は、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまでの優品が揃う吉野石膏コレクション、そして現代フランス絵画の巨匠らの作品群として知られる服部コレクション、二つのフランス近代絵画コレクションを収蔵している。 本展では、二つのコレクションを通して、19世紀から20世紀後半までのフランス絵画の多彩な展開を、テーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の企画展と統一料金	
長谷川コレクションー山形に伝わる江戸から明治の美	山形美術館の開館後間もない 1968 (昭和 43) 年、当時の山形銀行会長であった長谷川吉郎氏より、㊦長谷川家歴代が収集した美術品 163 点が寄贈された。以降 1994 年には㊧長谷川家より当時の殖産銀行(現・きらやか銀行)会長・長谷川吉内氏の遺志を継いだ長谷川憲治氏より 81 点、翌 95 年に再び㊨長谷川家より 48 点が追加寄贈され、全 292 点で構成される「長谷川コレクション」は、当館の日本美術の中核をなすコレクションとして親しまれている。 本展では、紅花商人であった長谷川家が守り伝えてきた作品を、季節ごとテーマを設け通年にわたり紹介する。	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※同時開催の企画展と統一料金	

-収蔵品展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	常設展 「巨匠の広場」「新海竹太郎・竹蔵の彫刻」 「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 800円 高大生 400円 小中生 200円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料	